

## 取組の背景と目的

ポロト自然休養林内には80年生を超えるトドマツ人工林が多くあります(図1)。胆振東部森林管理署では将来的にこの人工林を200年~300年生の広葉樹林・針広混交林へ誘導し、アイヌ文化に密接にかかわる森林産物の持続的供給と多様な野生生物の生息の場とすることを目指しています。

その第一歩として、令和2年にポロト自然休養林内に試験地「ポン・ニタイ(小さな森)」を設定しました。試験地にはアイヌ文化に密接に関わる樹木であるオヒョウニレを20本、アオダモを15本、エンジュを10本植栽しています。

今回は「ポン・ニタイ」で見つかった病虫害の状況と対応策について検討したので報告します。

## 植栽木の状態

令和4年8月、試験地の状況確認を行いました。防鹿柵とツリーシェルターを設置しているため、獣害は確認されませんでした。以下のような病虫害が見られました(図2)。



試験地「ポン・ニタイ」

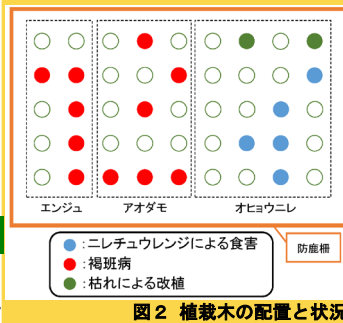


図2 植栽木の配置と状況

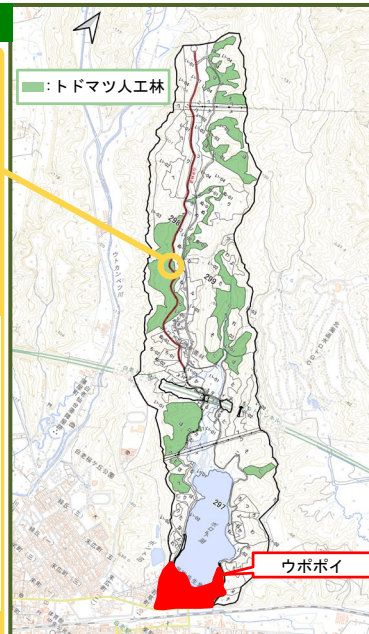


図1 ポロト自然休養林

## 病害

**状態** アオダモ(15本中6本)とエンジュ(10本中5本)の葉に褐色や白色の斑点があり、褐斑病の症状が見られました(写真1、2)。

**考察** ツリーシェルターによる高湿が原因であると考えられ、このまま放置すれば罹患者が増大する恐れや症状の進行により枯死する可能性があります。



写真1 アオダモ



写真2 エンジュ

## 虫害

**状態** オヒョウニレの葉には、ニレチュウレンジの幼虫が密集していました(写真3 赤丸内)。食害を受けた葉は、葉脈や主脈だけが残っている状態でした(写真4)。

**考察** 放置すれば葉がなくなり樹勢が衰える恐れがあります。ツリーシェルター内は枯れ葉が堆積し、かつ高温なためニレチュウレンジの越冬の場となっている可能性があります。



写真3 オヒョウニレ



写真4 オヒョウニレ

## 調査

植栽木の生育環境を改善するため、ツリーシェルターの撤去を検討しました。ツリーシェルターの撤去に伴い野ネズミの食害が懸念されたことから、野ネズミの個体数調査を行いました。

**内容** 10月に防鹿柵外に50個、柵内に3個はじきワナ(パンチュートラップ)を設置し、3日間調査を実施しました。

**結果** 2日目に柵外でヒメネズミを1匹捕獲しました。植栽木に被害を及ぼすエゾヤチネズミは確認できませんでした。

**考察** 結果から、野ネズミの個体数は少ないと推測することができます。また、植栽木は野ネズミの嗜好性が高い樹種ではないことからツリーシェルターを外すことによる食害の可能性は低いと考えます。

## 今後の展開

今回の調査結果から、ツリーシェルターの撤去は植栽木の生育環境の改善に有効だと考えられますが、ツリーシェルターの有無による生長量比較を行うため、融雪後半数のツリーシェルターを撤去し、植栽木の観察を続けることにしました。ツリーシェルターを撤去した植栽木については、形状安定を考慮しツリーシェルターの支柱を活用することとします。

虫害については、防鹿柵外にハルニレが多数あるため、ニレチュウレンジの試験地への侵入を完全に防ぐことは難しいと考えます。来年以降も定期的に観察を続け、被害の拡大が予想される場合には薬剤等による駆除も視野に入れるなど、当地に適した保育方法を模索していきます。

植栽木の健全な生長を目指し、今後も検証を続けていきます。

問い合わせ先 電話：0144-82-2161